

天文・科学情報スペース企画展「切り絵で描く星物語」報告

小栗順子 (天文情報センター)

JR三鷹駅南口の三鷹中央通りにある天文・科学情報スペースは、駅前の地域活性化や新たな魅力を創出する拠点となることを目指し、市民の方が最先端の天文学や科学に気軽に触れられる施設として、三鷹市や国立天文台などにより2015年に共同設置されました。ここでは、定期的に企画展が開催されており、「切り絵をテーマに」とお声がけをいただいたのが2019年12月のこと。タイトルを「切り絵で描く星物語」として、2020年4月中旬の開催に向けて打ち合わせを重ね、展示作品やギャラリートークの準備を進めていましたが、そこに新型コロナウイルス感染症が直撃しました。コロナ禍の広がり、緊急事態宣言の発出・延長で、施設は5月末まで休館を余儀なくされました。5月25日の宣言解除を受けて施設の再開にあたり、安心して来場者に鑑賞していただけるように、関係者による感染予防対策が進められ、新たな会期を6月6日～7月19日として、企画展を無事開催することができました。



01 企画展の会場の出入口には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する対策がとられました。看板の切り絵は、国立天文台野辺山宇宙電波観測所の風景。

展示した切り絵は、国立天文台観測所の風景や天体現象をモチーフにしたもの、宇宙と星にまつわる物語など、計10点。今回は、「天文台のあるまち・三鷹」ならではの展示を意識しました。出展する切り絵の候補は、企画展のお話をいただいた頃に、ある程度イメージしていましたが、開催が延期されて時間ができたこともあり、その間を利用して展示を再構成することを思い立ちました。コロナ禍にあって、会場でご覧いただける貴重な時間を、来場者につかの間であっても楽しく過ごしてもらえればという思いが強くなったこともあります。また、候補を



02 広々とした会場にゆったりと10点の切り絵を展示。withコロナ社会における「新しい生活様式」により、横並びで大幅切り絵展示「Mauna Kea, the Big Island of Hawai'i」の解説をする筆者（中央）。

絞り込む段階で、10年以上前のものから最新作まで、さまざまなテーマで制作した切り絵の一つ一つを時間をかけて振り返ることもできました。これは、展示解説シートを作成する際に役立ちました。会期中に予定されていたギャラリートークが企画展開始前に中止となり、直接来場者にお話をする機会がなくなったこともあり、その代替も含めて展示解説シートを作成したもので、作品の見どころやメッセージを来場者によりきめ細かくお伝えすることができたと思います。さらに、会期中には、三鷹市の広報番組製作の一環として映像取材が入り、企画展に込めた思いをお伝えする機会も得ました。インタビュー取材を含め、展示会場に

は2回赴きましたが、ここでは地元三鷹市の方々はもちろん、企画展を知って遠方からお越しの方もいらして、みなさんといっしょに会場の空気を共有できる「あたりまえ」の価値を改めて噛みしめました。企画展中の総入場者数は865人でした。

このようなwithコロナ状況下での企画展を体験して、表現そのものの在り方やそれを社会に発信する意義や役割を改めて問い直す必要を感じています。その上で、創作の原点やその思いを大切

にして、これからも天文や宇宙に関わるさまざまなテーマに興味を深め、新たな切り絵の表現の可能性を考えていきたいと思います。

思いがけず、未曾有の事態に見舞われた今回の企画展。関連する全てのスケジュールは大幅な変更となり、広報誌での告知なども随時調整が必要となり、なにより感染症対策の課題に直面するなど、国立天文台や三鷹市、施設関係者の方々には、困難な状況の中、多くのお力添えを頂きました。おかげさまで、準備段階から安心して進めることができ、無事企画展を終えることができました。お世話になった全てのみなさまに心より御礼申し上げます。



03 新たな学問分野「アストロバイオロジー」に挑戦した切り絵展示の前で映像取材を受ける筆者。カメラマンや三鷹市の担当者、会場の方々の温かく和やかな雰囲気のおかげで、無事撮影を終えることができました。このインタビュー映像は、「J:COMチャンネル武蔵野・三鷹」で放映されました。三鷹市テレビ広報「みる・みる・三鷹」は、YouTubeでバックナンバーを視聴可能です。575回（2020年7月5日号）8分40秒から登場します。

<https://www.youtube.com/watch?v=UJcnlgSHxYo>